

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>1 基本的な生活習慣を身につけ、自らを大切に他人を思いやる心をもつ生徒を育てる。</p> <p>2 教職員、生徒が希望、情熱、愛情、信頼をもって一体となる、特色ある、活力にあふれる学校づくりを進め、保護者、地域から信頼を得る。</p> <p>3 個々の生徒の能力、適性、興味、関心や進路希望に応じた主体的な学習を促し、きめこまかな指導の実践により、生徒の進路希望の実現を図る。</p> <p>4 学校評価、教職員評価システムによって、自己点検、評価を行い、教育活動の改善を目指す。</p>	<p>1 基礎学力の定着をはかるために、様々な授業の工夫を行った。「にしおつスタディカップ」や「国際交流活動」は学習意欲の向上に成果があったが、自主的な学習時間の増加に繋がる取組や自習室の活用に課題が残った。</p> <p>2 規範意識の向上と道徳心の育成については、全教職員が服装指導や頭髪指導に取り組み、一定の成果が見られた。今後も、教職員が一丸となった持続的で粘り強い指導が肝要である。</p> <p>3 進路指導については、学年部と進路指導部、各教科との連携が図られ、個々の生徒に対して丁寧な指導を最後まで行った結果、一定の成果が見られた。今年度もチームプレーで指導を行うのが重要である。</p> <p>4 広報活動については、説明会の工夫や、ホームページのリニューアル、広報誌の定期的な発行と中学校訪問を通して、本校の教育活動を外部へ発信することができた。今後も、地域の中学校を中心に連携を深め、学校に対する信頼を高める取組が必要である。</p>	<p>1 頭髪指導、服装指導等の生徒指導を全教職員で一致して行い、生徒にけじめのある学校生活を過ごさせることで、規範意識の向上と公德心の育成をはかる。</p> <p>2 各教科で生徒の学習意欲を高めるわかりやすい授業実践を行い、自主的な学習時間を増加させ、学力向上を図り、希望進路を実現させる。</p> <p>3 当該分掌、教科、学年だけでなく、全教科・全分掌が協力し合って国際教育を充実させるとともに、各コースの教育内容の充実を図る。</p> <p>4 学校説明会を充実させるとともに、学校HPや「西乙だより」を通じて、中学生や保護者にタイムリーな情報提供を行い、志願者の増加をはかる。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	◇分掌間・教科間の協力推進	○分掌間と教科間での領域を超える連携と調整を図り、教職員全体が当事者意識を持ち、各コースの教育内容を充実させる取組を推進する。	B	・各分掌毎の情報提供や連携が随分スムーズに図れるようになった。 ・各コースの特徴的な取組、コースを充実させる体勢作り、内容の充実化を図っていく必要がある。
学習指導	◇学力の向上	○個に応じたわかりやすく、魅力ある授業を展開し、生徒の学力向上につながるよう課題設定を行い、指導技術・技能を向上させる。	B	B ・家庭学習時間が十分でない生徒も多く、生徒の学習意欲を高める働きかけや適切な課題の設定がさらに必要である。 ・いろいろな課題や小テストを提供しているが、取り組めていない生徒も多く、自主的な学習時間を増加させるには至っていない。 ・新着本の紹介や、図書館だよりの内容充実、展示の工夫がなされ図書館の活用しやすくなった。 ・積極的な国際交流を行っている。研修旅行に向けた取組の中で生徒の主体性を引き出すことができた。また、現地の学生と接することで異文化理解を深めることができた。 ・異文化理解を推進しているが、具体的な進路実現につながる学力向上にどのように結びつけるかを考えていく必要がある。
	◇家庭学習の充実	○自主的な学習時間を増加させることを目指し、学習時間調査を有効活用し、毎日の家庭学習時間が<学年+1>となるよう指導する。	C	
	◇図書視聴覚教育の充実と委員会活動の推進	○視聴覚機器を利用しやすい環境整備を図るとともに、新着本等の紹介を通じて、生徒の読書意欲を向上させ、図書館利用の促進を図る。	B	
	◇国際交流の充実と異文化理解の推進	○米国アーリントン高校との交流を中心に積極的に国際交流活動を実践し、国際教育を充実させる。第2学年では、海外研修旅行を通じて生徒の主体性を引き出す指導を行い、成功させる。異文化理解を推進するだけでなく、進路実現につながる学力向上に結びつける。	A	
進路指導	◇希望進路の実現	○様々な取組を通じて学力伸長をはかり、実践的な実力養成を支援し、生徒個々の進路希望に応じた指導や個人面談を行い、最後まで粘り強く取り組む意識を醸成し、希望進路を実現させる。	B	B ・1年生は、進路部と連携しキャリアプランガイダンスを実施した。 ・2年生は、オープンキャンパスに参加し、自己の進路について考える機会を持った。 ・3年生は、個人面談を何度も行い、個々の進路希望に応じて指導した。 ・進路指導部と学年が連携し、今後も進路希望の実現を目指して、最後まで粘り強く、取り組ませていく必要がある。
	◇キャリア教育の推進	○学年部との連携や高大連携等の取組を通じて、具体的な進路目標や進学意識を早期に形成する。生徒個々のキャリア形成を促進し、進路希望に応じた指導を徹底し、進路決定率100%を実現する。	B	
生徒指導	◇規範意識と自主自律心の向上	○挨拶励行、身だしなみ、適切な言葉遣い、清掃の徹底、時間厳守(ベル着、遅刻防止)等、基本的な生活習慣が確立するよう、全教職員が一致した指導を行う。 ○生徒会の各委員会活動を活性化し、生徒の自主性を育成する。	B	B ・朝の遅刻指導強化期間を実施し、基本的な生活習慣の改善を図った。 ・年度当初の教職員研修で、指導項目や基準において教職員間で十分に討議し、生徒指導の基準が明確になり、「全教職員で一致した生徒指導」が行えるようになった。 ・身だしなみ等は全体的には改善されてきた。学年と生徒指導部が連携し、個別に早急に指導を行った。 ・交通安全に対する意識をさらに高める対策が必要である。 ・部活動の加入率を高め、さらなる活性化を図っていく必要がある。 ・生徒は、学校行事には意欲的に取り組んでいる。 ・生徒の活動の活性化の為に、委員会の役割や取組について検討する必要がある。 ・各クラスでゴミの分別の徹底を図り、分別意識を高める啓発の仕方の工夫が必要である。 ・教育相談および特別支援の必要な生徒には、丁寧に指導できた。 ・人権に関わる些細な事象も見逃さずに対応していくことができた。
	◇交通安全指導の推進	○地域、PTAとも連携し、通学安全指導を強化する。	B	
	◇特別活動や部活動の育成と充実	○生徒会活動及び学校行事に積極的に参加するだけでなく、部活動にも加入して積極的に取り組むよう指導する。部活動の加入率を引き上げる。	B	
	◇環境・美化の推進	○学習環境を整備するために保健委員を中心に、ゴミの分別やペットボトルキャップのリサイクル推進等の環境美化活動、及び広報活動を行い、生徒全体の意識を向上させる。	B	
	◇生徒の実態把握と支援の充実	○健康調査等により生徒の健康実態を把握し、校医・家庭・教職員との連携を密にして、健康上課題がある生徒の早期対応に努める。 ○スクールカウンセラー及び地域の専門機関との連携により、学校における教育相談及び特別支援の機能を充実させる。	B A	
	◇人権意識の向上	○生徒の人権意識を高揚させるために、あらゆる教育活動において人権感覚を意欲させる指導を行う。	B	
家庭・地域	◇広報活動の充実	○本校の良さやコースの特徴を中学生や保護者にわかりやすく発信するために、地元中学生への広報誌配布や、HPの更新とメールサービスの計画的な活用に努める。	B	B ・中学への広報誌の配布や中学校訪問は充分に行われている。 ・HPの再構築や効果的な広報活動を模索したい。よく発信できたと思われる。 ・学校公開等でのアンケートでは、きめ細やかな対応として良い評価を得ている。中学生に、西乙訓高校の良さを伝えることが一定できたと考えられる。
	◇地域・外部への的確な対応	○窓口・電話業務を好感を持たれる様な対応を心がけ的確に行い、地域・外部へのサービス向上に努める。	B	
安全管理	◇安心・安全な教育環境の整備	○校内危険箇所の点検を定期的に行い、早期対応に努める。また、不審者の侵入を防ぐため、外来者の確認を確実にを行う。併せて、備品等の管理を徹底する。	B	・校内の危険箇所や設備の不備を定期的な点検で確認し、改善を行っている。 ・校舎内の廊下の壁を塗装し直し、美しく明るくなった。美しさを維持する意識も芽生え、過ごしやすくなった。樹木の剪定等で、中庭も明るくなり、生徒の利用も増えた。
生徒福祉	◇的確な生徒福祉業務の推進	○生徒の教育の保障と進路実現に向けて、就学支援金や奨学金等の業務を的確に行う。	B	・担任は、就学支援金の手続きの案内や奨学金等の案内も事務部と連携して行えた。

学校関係者 評価委員会 による評価	<ul style="list-style-type: none"> ・評価については、定量的な評価は必要である。具体的な数値目標は立てにくいとは思いますが、評価するための指標は持つべきである。数値目標は持った方がよい。 ・経営計画の評価は、悪いところの改善だけでなく、良いところが、何で良かったのか、その背景の振り返りを見るのも必要である。 ・いろんな行事等を見せてもらった。これで十分だと思う。海外研修旅行も充実し、これ以上何ができるのかを考えることも必要ではないか。生徒は満足している。 ・高校生活に求めるものが何かについて、親の意識と子どもの意識を知り、その意識改革を図りながら一致した目標に向かって教育をすすめるべきではないか。 ・学力の高い中学生だけでなく、地域の学校として、地元の中学生在が、西乙訓へ行って頑張ったら、3年先には納得がいく進路が見えているという形にする。 ・アンケートを取るときに、その先生にとって、どの項目を一番重要と思っているのか、生徒にとって、どの項目が一番優先して重要なのか、を見極めることが必要である。 ・学校が課題と思っていることが、実際にはそれほど重要でないこともある。 ・西乙訓高校は、「勉強」のイメージがある。そのイメージの中でも「楽しい」の回答率が多いことは素晴らしいことである。 ・親としては、勉強もしながら、それでも楽しい学校へ行かせたい。そのような学校は少ないので、アピールのポイントである。 ・実施段階における学校評価に対し、管理職としては、評価CをBにする努力・工夫を更にするべきである。また、「本年度学校経営の重点」を具現化するための具体的な方策を検討し、定期的に検証すべきである。「本年度学校経営の重点」「具体的方策」の表現を明確にして、数値目標に基づいた評価と次年度の目標設定をすべきだ。ポイントを絞り重点化するのも必要であろう。 ・生徒自身は、とても誠実な子が多く、他校に比べても自慢できる生徒が多い。上り坂を上がったなら、落ち着いた生活をしている生徒達がいて、その子達をなんとかする。というイメージは学校の中にできているが、保護者から見て、3年後の姿が見えるようで見えないのかもしれない。そのあたりの発想を変えていく必要がある。 ・家庭学習時間が少ないとしているが、実際の具体的方策では、「自主的な学習時間の増加」としている。家庭学習への指針を明確に示す工夫をする。 ・評価をするときの、数値目標を持つてする。 ・教職員全体が当事者意識をもち、学校経営・校内運営に当たる必要がある。そのためにも、各分掌部長及び教科主任が、それぞれの領域を超える連携と調整を図る。 ・校内喫緊の課題を解決するために、分掌部長・教科主任が中心となって、対策を早急に講じ取組を推進する。学習指導、進路指導、生徒指導は、すべてにおいて関連性があるので、連携した課題の解決策を講じる。 ・本校で取り組まれている様々な取組の実践を生徒募集結びつけるために、広報部を中心とし、本校の教育実践を中学生・保護者・地元に対して積極的にアピールする。
----------------------------------	---

次年度に 向けた改善 の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校経営計画の重点」に基づいた「具体的方策」を、分掌部長・教科主任が中心となって明確にする。 ・学習指導、進路指導、生徒指導の、関連した課題の解決を目指し、具体的に連携した取組としていく。特に、1年次の指導が大切である。3年間を見据えた規範意識の向上と学習意欲の維持が重要である。 ・特色あるコースの目標に応じた授業を行い、その目的が達成されたかどうかの評価について、アンケートだけでなく、数値目標を持ってその達成率で評価していくことを考えたい。 ・規範意識の向上と公德心の育成を図っていく。特に携帯電話・スマートフォンの使用についてのマナー教育をすすめていくことがさらに必要である。全教職員が一致した指導を行うことにより、生徒にけじめのある学校生活を過ごさせることができる。 ・評価として、「授業アンケート」「学校評価アンケート（生徒）」「学校評価アンケート(保護者)」を実施しているが、その内容と、結果の活用についてさらに具体的にしていける必要がある。 ・実態に合ったアンケート内容にすることで、新たな課題が明確になることを期待している。 ・部活動の加入を促し、加入率を向上させ、活動状況を把握し、活性化を図る。 ・中学生が求める高校生活の魅力について把握し、「学力をつける努力をしながらも楽しい学校」としての魅力を広報していく必要がある。 ・自学自習による学力の向上を、「進路学習エリア、自習室、学習室」「学習強化週間」を活用しすすめていくことを推進する。
--------------------------------	---